

【調査結果を踏まえ、書く力をつけるために】

- ・書く力を養うために、地道に取り組むことが必要である。自分の言葉で書いていく習慣をつける取組が大切である。
- ・児童生徒は、絵と言葉を照らし合わせながら、理解していく。見たことや分かったことを自分の中で解釈して、言葉にして表現していくことが大切な過程である。
- ・ベテラン教師は、自分の言葉で書くことを促し、書く力につなげている。書いたことへのフィードバックは大変ではあるが、大切なことである。

【家庭学習に関して】

- ・自主学習については、低学年から学び方の指導を家庭でも浸透させていかないと定着しない。
- ・調べ学習だけではなく、思考・判断・表現を養う学習も取り入れ、宿題の出し方を工夫する必要がある。
- ・教師から家庭学習を促していくことや授業と関連付けた宿題を出していくことが大切である。家庭で取り組んだことが授業でいかされる実感があると、次の家庭学習につながっていく。学び方の指導をしていくことも重要である。
- ・スマホ等の通情報機器や生成AIの扱い方等について、学校での指導の充実と保護者との連携を図ることも大切である。

【ほめる、認めていくことの教育的効果について】

- ・入試だけでは、学力を高めるモチベーションは上がらない。児童生徒が伸びていくためには、子どもと向き合ってほめる、伸びようとする気持ちを大切にすることが必要である。
- ・合言葉「ほめるから、はじめる。はじまる。」を保護者や地域に広げてほしい。知っているか否かで、家庭での関わり方も変わってくる。
- ・ほめる、認めることの教育的効果を共通理解しながら、学力向上につなげていくことが大切である。
- ・子どもをほめるには、出番づくりから。
- ・できなかったとしても、プロセスの部分に目を向けながら、頑張っているプロセスを認めながら関わっていくことも大切である。
- ・ほめるところは保護者が一番知っている。家庭の中でもほめる取組を始めてほしい。
- ・学校現場だけの問題ではない。大人が背中を見せることも大事である。

【「さがん学びプロジェクト」を推進していくために】

「さがん学びプロジェクト」とは？

- ・自分で考え、判断し、行動できる子ども
- ・自分に自信を持ち、夢や目標を実現しようとする子ども
- ・学び方を身に付け、深い学びを実現する子ども
- ・家庭学習の習慣化を通して、自ら学ぶ子ども

を育てるために、
各学校等の教育活動を、県教育委員会事務局が市町教育委員会や教科部会等と連携をしながら、
一体的に支援する取組。

※当日資料より

- ・若手教員が増えている中、授業力向上は各学校等において課題である。
- ・素晴らしい取組を行っている先生はいるが、その素晴らしい取組が広がっていない現状がある。内容面や情緒面、方法について、フィードバックすることが大事である。
- ・いかにすべての先生方に、すべての学校に、伝えていくかが課題である。各市町では、さまざまな取組がなされている。もっともっとつながるように、様々な学力向上に係る取組が伝わるように広げてほしい。
- ・研究指定校等の取組が、「学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践」や「授業改善に向けた校内研修等の充実」につながるように、好事例を広げていくことが大事である。